

氏名	田村 昌大
所属	獣医内科学教室
学年	博士課程 3 年
活動先名	機関名、国名 ● University ● of Guelph, Canada ● Colorado State University, the United State ● Oregon State University, the United State
期間 ① (出発日―帰札日) ② (インターンシップ 実施開始日―終了日)	① 2019 年 04 月 06 日 - 05 月 05 日 ② 2019 年 04 月 08 日 - 05 月 03 日

● 活動目的

本インターンシップの活動目的は、各大学で診療見学および研究ディスカッションを通して、申請者の人間性およびこれまで培ってきた臨床技術・研究成果を示し、米国獣医大学研修医へ受け入れの打診することであった。

● インターンシップ先を選択した理由

今回のインターンシップ先は、現実的に将来的な米国専門医教育プログラム（レジデント）採択の可能性がある大学を選択した。

報告者の卒業後のキャリアパスは、非常に明確である。それは、米国獣医放射線レジデントあるいは研修医への採用である。北米獣医大学は日本と少々事情が異なり、臨床が大きなウェイトを占めている。それを示すように、北米獣医大学の 3 年あるいは 4 年生は、卒業までの残りの学生生活をすべて臨床現場で過ごすことを多くの大学が義務づけている。そのため、必然的に各科の専門医は最も権威のある称号の一つとなり、専門医の卵であるレジデントのポジションは非常に熾烈な争いとなっている。そして報告者が目指す米国放射線レジデントポジションは、現在北米獣医大学 21 校で年 1 回各大学 1 ポジションが募集を行っている。しかし申請者は Visa の問題から、北米獣医学 21 大学中 5 大学のみしか応募することが出来ない。そこで、昨年 10 月テキサス州で開催された米国獣医放射線学会に参加した際に、これら 5 大学全てに対しインターンシップを打診したところ、上記 3 大学のみが大学訪問の許可を得ることが出来たため、今回その 3 大学を選択し訪問した。

- 活動内容・成果（2,000 字程度、活動内容が判る様な写真や図表を加えて下さい）

本インターンシップでは、University of Guelph の Ontario Veterinary College (OVC) Teaching Hospital に 1 週間、Colorado State University の Teaching Hospital に 2 週間、そして Oregon State University に 1 週間、それぞれ放射線（画像診断）部門に滞在した。そして、画像診断部門が行う臨床活動および教育活動に密着した。それぞれの場所における活動内容は類似していた。

時間		詳細
8:00-	症例検討	レジデントが主体となり、前日に来院したすべての症例の画像を再検討する。金曜日は Journal club (論文紹介) 。
9:00-	学生教育①	学生は前日に与えられていた課題について、レジデントを中心に画像診断の検討会を行う。
10:30-	診療活動	全ての科において、画像診断を希望される症例すべての症例の画像診断をレジデントと教員が行う。
16:00-	学生教育②	レジデントが evidence based medicine に沿い、学生向けの教育セミナーを行う。また頻繁に学生同士で教科書の内容についての発表を行う。

一方で、それぞれの大学の特色や得意分野についても感じる事が出来た。

University of Guelph

ゲルフ大学は大規模総合大学であり、獣医学ランキングでは世界 4 位と非常に先進的な大学である。そして同時にカナダで最も来院数の多い動物病院である。ゲルフ大学の放射線セクションは、専門医が 3 名、レジデントが 3 名、動物看護師が 10 名から構成されている。全ての北米獣医大学では当たり前であるが、基本的にレントゲンや CT 検査などの画像の撮影は全て動物看護師を行う。これは日本と大きく異なり、欧米の動物看護師は国家資格であり、さらにそれぞれの分野に細分化されトレーニングを受けている。そのため、治療の権限はない一方で画像の撮影技術等に関しては日本の一般的な獣医師より遙かに高い。日本の様に、十分な撮影訓練を受けていない獣医師がなんとなく撮影し、それを自分で読むことは基本的にはあり得ない。これは今後日本も大きく見習わなければならない点であった。

ゲルフ大学放射線セクションでは、毎朝専門医とレジデントによる症例検討会が行われ全日参加した。日本での実臨床について質問を受けることも多く、有意義な症例

検討を行うことが出来た。また現在の報告者の研究について、発表する機会を頂き研究討論を行うことが出来た。また日中は全日、診療を見学した。



レジデントによるカテーテル治療



学生同士の発表会

Colorado State University

コロラド州立大学の放射線セクションは、その症例数や充実した教育システムから全米屈指の人気を大学である。北米獣医放射線専門医は小動物（特に犬や猫）のみならず馬の画像診断も行うことが、日本と最も大きく異なる点の一つである。報告者はこれまで小動物臨床に携わってきた一方で、馬の臨床に関しては全くの経験がない。しかし、コロラド州立大学は小動物のみならず馬の診療に関しても非常に症例数が多い。そこで、今回滞在2週間のうち先の1週間を馬の画像診断、後の1週間を小動物の画像診断をそれぞれ見学した。日本において、馬の多くは競走馬である一方で、アメリカにおける馬は愛玩動物である。そのため、非常に高度な診療技術が求められる。実際、馬に対してもCTやMRI検査などの高度医療はほとんど毎日撮影が行われていた。これまで馬の画像診断の経験は無いものの、レジデントと共に画像診断をする機会を頂きディスカッションを行いながら、実際診断レポートの作成などを行った。



レントゲン撮影（脊髄造影）



レジデントの勉強会に参加

Oregon State University

オレゴン州立大学は、北米獣医科大学の中で最も西部に位置する大学であり Portland 国際空港から南下し、Corvallis という非常に小さな田舎町にある大学である。大学は非常に大きいものの、附属する Teaching Hospital は北米獣医科大学の中では比較的小さい病院であるが、それでも我々の北海道大学附属動物病院より大きい病院であった。オレゴン州立大学では、現在申請者と類似している研究が行われていることもあり、現在の研究に関して発表する機会を頂いた。特に研究の一つである、造影超音波検査に関しては我々内科学教室が世界に先駆け研究成果を報告していることもあり、その技術や解析方法などについて多くの質問を受けた。一方で、オレゴン州立大学の放射線セクションが研究している内容についても、研究ディスカッションをすることが出来た。また臨床面に関して、診療を見学すると共にコロラド州立大学同様に診断レポートの作成など実際に多く行った。



画像読影室（滞在中はここで診断レポート作成）



食事療法の在庫

- 今後のキャリアパスを考える上でどのようにプラスになったか。

今回報告者のインターンシップの目的は研究活動などではなく、あくまで診療見学および専門医とのコミュニケーションを通じて米国獣医大学研修医へ受け入れの打診をするという明確なキャリアパスが既に決まっていた。そのため、インターンシップ前に CV の作成や志望同意書などを全て作成・印刷し持参した。そして全ての大学において、教員と 1 対 1 での面談の機会を打診し面接を受けることが出来た。現在結果を待っている所である。

- 後輩へのアドバイス

本インターンシップ活動の大きな目的は、キャリアパスである。現在まだ明確なキャリアパスが決まっていない人においても、インターンシップは非常に恵まれた機会

である。自分のためになるように、インターン先の選定から申請書作成を真剣に行うと共に、積極的なインターン活動の実施を行うことをおすすめする。

● 最後に

インターンシップ活動を通して、自らの望むキャリアパスに挑戦する考える機会を頂きました。このような貴重な機会を与えて頂いたリーディング大学院と関係者の皆様、各大学の皆様、獣医内科学教室の皆様に心より感謝申し上げます。

指導教員確認欄	指導教員所属・職・氏名 獣医内科学教室 教授 滝口満喜
---------	------------------------------------

※1 電子媒体を国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出して下さい。

※2 インターンシップ先の担当者が活動内容を証明した文書（署名入り）を提出して下さい。

※3 本報告書はリーディングプログラムキャリアパス支援委員会で内容を確認します。その後、教務委員会で単位認定を受けることになります。

提出先：VETLOG

内線：9545 e-mail: leading@vetmed.hokudai.ac.jp